

令和3年度 決算

令和3年度の決算が、町議会第3回定例会で認定されました。

皆さんに納めていただいた大切な税金などが住みよいまちづくりにどのように使われたのか、その概要を紹介します。
 図 企画財政課財政係 ☎ 34-2072

町の財政のこれからは

||| 今後、大幅な収入の伸びは期待できず
 支出は増加する見込みです

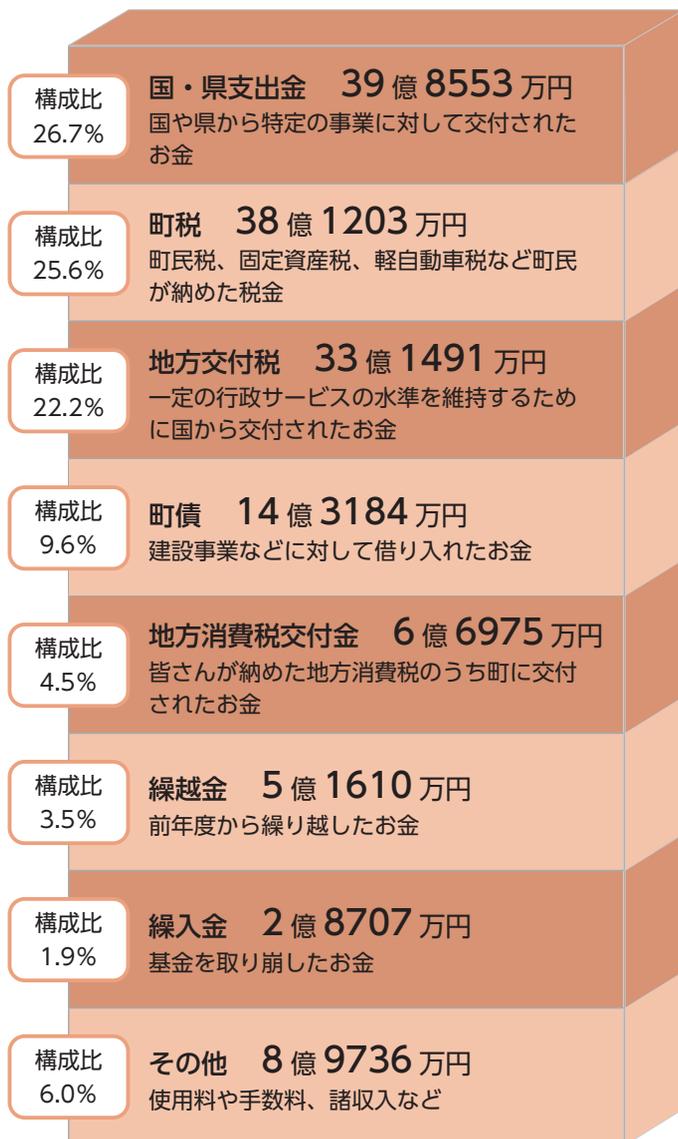
少子高齢化や人口減少により、町税の大幅な増収は見込めない一方、高齢福祉や障がい福祉に伴う費用が増大していくほか、町として取り組まなければならない施策である学校施設の再配置や、公共施設の老朽化対策に伴う費用の発生により、支出は増加する見込みです。



||| お金の集め方や使い方を
 よりいっそう見直します

これまで取り組んできた企業誘致による税収の確保や国県補助金の積極的な活用といった取り組みを継続するとともに、事務の効率化や各事業の廃止や縮小を含めた見直しを進めてめりはりのある財政運営を行うほか、公共施設の基金への積み立てや公共施設の施設総量の適正化などを検討します。

一般会計歳入 149億1457万円



一般会計歳出 140億5227万円



※金額は項目・区分ごとに四捨五入していますので合計が一致しない場合があります。

性質別歳出

扶助費 (21.5%)

30億2571万円

高齢者、障がい者、児童への援助などに

人件費 (15.6%)

21億8619万円

職員の給与、議員報酬などに

物件費 (14.8%)

20億8606万円

委託料、光熱水費、事務用品などの消費的な支出に

補助費等 (13.9%)

19億5365万円

一部事務組合への負担金や各種団体補助などに

普通建設事業

(12.3%)

17億2534万円

道路や施設の建設などに

公債費 (10.4%)

14億6009万円

町債の返済などに

繰出金 (8.4%)

11億7820万円

他会計への支出に

積立金など (3.1%)

4億3704万円

一般会計歳出合計

140億5227万円

令和3年度会計別決算

※金額は項目・区分ごとに四捨五入していますので合計が一致しない場合があります。

一般会計・特別会計

会計名		歳入額	歳出額	差引額
一般会計		149億1457万円	140億5227万円	8億6230万円
特別会計	国民健康保険特別会計	39億1697万円	34億3890万円	4億7807万円
	後期高齢者医療特別会計	5億6096万円	5億4869万円	1227万円
	介護保険特別会計	31億3211万円	29億1603万円	2億1608万円
	磯城郡介護認定審査会 共同設置特別会計	1658万円	1368万円	291万円

企業会計 (▲はマイナスを表す)

会計名		収入額	支出額	差引額
水道事業会計	収益的収入及び支出	10億2579万円	12億6330万円	▲2億3751万円
	資本的収入及び支出	7800万円	2億5141万円	▲1億7341万円
下水道事業会計	収益的収入及び支出	10億6892万円	10億4436万円	2455万円
	資本的収入及び支出	5億8921万円	8億7596万円	▲2億8675万円

収益的収入及び支出：経営活動に伴って生じる収支

資本的収入及び支出：施設の整備などに関する収支

一般会計

一般会計は黒字

一般会計は、歳入歳出差引額が8億6230万円となり、翌年度に繰り越すべき財源6485万円を除くと、実質的な黒字は7億9745万円となりました。

「黒字が大きいから安心だ」と思われるかもしれませんが、令和3年度は国からの地方交付税が追加で交付されるなど、特殊要因によるところも多く、財政運営は今後も一層厳しさを増すことが予想されます。

特別会計

4つの会計決算はすべて黒字

特別会計とは、特定の事業を行うための経費を一般会計と区別する必要がある場合に設置する会計で、4つの特別会計の決算額は上表のとおりです。

企業会計

水道事業は赤字

下水道事業は黒字

独立採算で運営を行う公営企業に水道事業と下水道事業があります。決算額は上表のとおりです。

水道事業では、収益的収支は損益計算による経常利益は3673万円となりましたが、令和4年度から水道事業を磯城郡で広域運営するにあたり、固定資産の一括除却を行ったため当年度純損失が2億4403万円生じ赤字決算となりました。なお、資本的収支は1億7341万円の不足が生じたため、過年度分損益勘定留保資金などで補填しました。

下水道事業では、収益的収支は損益計算による当年度純利益が2750万円生じ黒字決算となりました。なお、資本的収支は2億8675万円の不足が生じたため、過年度分損益勘定留保資金などで補填しました。

3

潤いや喜びを与える
学びとスポーツのまちづくり

- **社会教育の充実に…2億4672万円**
生涯学習の推進や青少年健全育成、文化財の保護・活用、図書館運営、施設の維持管理などを行いました。
- **スポーツの振興に…3709万円**
スポーツ振興計画の策定やスポーツ少年団の育成への支援、体育施設の管理、スケートボードパークの運営などを行いました。

4

安全で快適な暮らしを支える
まちづくり

- **一般下水路事業…5億8851万円**
内水被害を減らすための治水対策として、旧県水資材置場と阪手新池の雨水貯留施設整備工事や寺川東地区と飛鳥川東地区の雨水貯留施設整備のための用地買収などを行いました。
- **田原本駅周辺市街地整備推進事業…3億1805万円**
田原本駅周辺市街地再開発事業のため、用地購入や再開発組合に対して補助金の交付を行いました。
- **タワラモトタクシー利用料金助成事業…2190万円**
移動制約者の利便性の向上のため、一般タクシーの初乗り運賃相当額を助成しました。

5

賑わいと活力あふれる
まちづくり

- **商工振興対策事業…2005万円**
商工会が実施する商工業の振興を支援する補助金や、新型コロナウイルス感染症にかかる休業要請に応じた店舗などへの協力金の支給などを行いました。
- **中小企業資金融資事業…426万円**
町内中小企業に対して融資を受ける際の保証料や利子に対して補助金を交付しました。
- **観光振興対策事業…3481万円**
観光振興を図るため観光ステーションの運営などの業務委託や（一社）田原本まちづくり観光振興機構の運営補助などを行いました。

6

住民とともに実現する
まちづくり

- **自治振興事業…2792万円**
地域自治会の育成を図るため、自治会活動への補助などを行いました。
- **ふるさと応援寄附金推進事業…1777万円**
町のPRや地域事業者の販路拡大など、地域産業の活性化に取り組みました。

～子どもから高齢者まで 誰もがいきいきとした暮らしを楽しむまち たわらもと～の実現に向けて

令和3年度 実施事業の紹介

厳しい財政状況の中、国や県からの補助金を得られる事業を優先して実施しました。

1

子育ての願いをかなえる
まちづくり

- **小学校の教育の充実に…2億813万円**
- **中学校の教育の充実に…1億8539万円**
- **学校給食の充実に…2億6802万円**
学習環境の整備、学校施設の維持管理をはじめ、サポートが必要な児童・生徒への支援員の配置、学校給食の提供などを継続して行い、教育の充実に努めました。また令和3年度は、中学校特別教室への空調設備の設置、小・中学校のトイレ洋式化、成績処理や各種業務が行える統合型校務支援システムの導入などを行いました。
- **幼稚園の教育の充実に…3億1822万円**
園児が楽しくいきいきと過ごせる環境づくり、施設の維持管理、預かり保育など、幼稚園や認定こども園の運営を行いました。
- このほか、きめ細やかな子育て支援を行うため、子育て総合窓口や子育てひろばの運営などに取り組みました。

2

健康で安心な暮らしを支える
まちづくり

- **たわらもとヘルスケアプロジェクト事業…6747万円**
高齢になっても地域で元気に暮らせる社会を実現するために、歩数によってポイントが付与され、貯まったポイントを地域商品券に交換できる「健幸ポイント事業」とICTを活用した筋力トレーニングを主とした「健幸運動教室事業」を実施しました。
- **社会福祉事業…9783万円**
各種団体やボランティア、NPO、民生児童委員や各種相談員の活動の活性化を図るために活動の支援を行いました。また地域福祉の推進のため、社会福祉協議会の体制の充実や地域福祉計画の策定に向けた準備を行いました。

令和3年度決算

経常収支比率 93.0%

財政構造の弾力性を示す指標で、町税などの経常的な収入が人件費や公債費などの経常経費にどれくらい充てられているかを表しています。令和3年度は前年度に比べ6.5ポイント低下しましたが、これは国からの交付税が大幅に増額されたことによる一時的な低下といえます。



健全化判断比率

町の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標です。いずれの指標も国の基準を下回りましたが、引き続き財政健全化に取り組んでいきます。

指標	田原本町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	13.79%	20.00%
連結実質赤字比率	-	18.79%	30.00%
実質公債費比率	10.8%	25.0%	35.0%
将来負担比率	49.3%	350.0%	

※赤字額がないため、実質赤字比率、連結実質赤字比率は「-」表示となります。

用語説明

- 実質赤字比率**…標準的な収入に対する普通会計の実質的な赤字の割合
- 連結実質赤字比率**…標準的な収入に対する全会計の実質的な赤字の割合
- 実質公債費比率**…標準的な収入に対して普通会計が負担する実質的な借入金の返済の割合
- 将来負担比率**…標準的な収入に対して普通会計が将来負担すべき負債の割合

資金不足比率

地方公営企業の資金不足額が事業規模に対してどの程度あるかを示すものです。水道事業会計・下水道事業会計はともに資金不足額がないため該当はありませんでした。

会計名	田原本町	経営健全化基準
水道事業会計	-	20.0%
下水道事業会計	-	20.0%

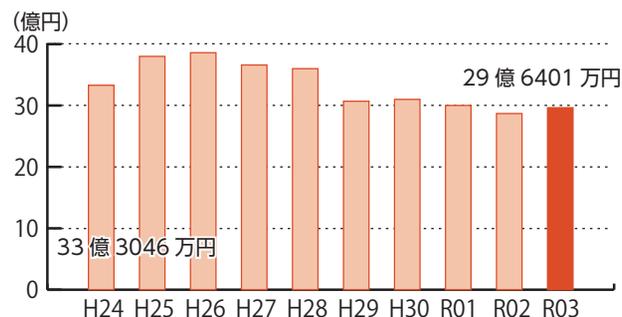
※経営健全化基準とは、早期健全化基準に相当する基準です。
 ※資金の不足額がないため、資金不足比率は「-」表示となります。

指標でみる 財政状況

基金残高 29億6401万円

一般会計には、純粋な貯蓄といえる財政調整基金や減債基金、特定目的のためのふるさと応援基金、企業版ふるさと納税基金、森林環境整備促進基金、公共施設等整備基金、福祉基金があります。

令和3年度は、後年の公共施設老朽化に備え、公共施設等整備基金を1億円積み立てたことなどから、基金全体では前年度に比べ約9550万円増加しました。



町債残高 133億7447万円

一般会計の町債残高は平成16年度をピークに毎年減少してきましたが、新清掃工場などの大型事業の実施に伴い平成27年度に増加に転じ、令和3年度についても市街地再開発事業や道路の整備、内水対策などに町債を活用したことから、前年度に比べ約1060万円増加しました。

